

重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)	若者が暮らしたいと思うまちである	
施策名	若者が暮らしたいと思うまちをつくる	No.32

年度	平成28年度
責任部長	経済部長
主担当課長	経済振興課長
関係課	公園緑地課、青少年育成課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	実績値						目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
一宮市に住み続けたいと思う若者の割合(%)	→	71.7	74.2	78.1	79.4	79.2	78.0	75.4
		78.0	76.5	71.8	77.1	72.8		79.6
身近に楽しんだり、活躍できる場所、機会があると感じている若者の割合(%)	→	40.9	38.1	43.6	42.3	47.5	43.8	47.1
		43.8	47.6	46.3	42.9	49.0		53.3
一宮市内の企業に既に働いている若者の割合(%)	→	37.5	31.7	30.8	28.0	25.4	27.0	38.7
		27.0	27.4	31.4	26.0	26.5		40.2
若者の流入・転出人口の差(人)	→	-	-	-	-	-	-	-
		▲ 271	▲ 21	▲ 189	216	267		210

2. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

- ・人口減少傾向にある中、尾張一宮駅前ビルのオープンやそれに伴う中央図書館のオープンにより学生などの若い世代を中心に駅周辺に人が集まりやすい環境が整いつつある。
- ・中心市街地の商店街には、若者向けの飲食店が増えるなど賑わいが出てきているが、品揃え・駐車場などの点から、娯楽を伴う大規模小売店への消費者依存度は依然として高い。
- ・市民の憩いの場として、138タワーパークや市総合体育館など各種イベントやスポーツなどの場としての環境がある。
- ・基幹産業であった繊維産業の衰退以降、新たに若者を吸収できる企業が乏しい状況にある。

3. めざすべき姿に対する現状評価(まちづくり指標や外的要因等からの評価)

現状評価	B 停滞	まちづくり指標の内、「身近に楽しんだり、活躍できる場所、機会があると感じている若者の割合」「若者の流入・転出人口の差」で、前年と比較すると改善され、特に若者の流入・転出の人口の差においては前年度に目標値を超え、更に増える結果となった。尾張一宮駅前ビル、総合体育館などの施設や、若者向け飲食店の増加などで若者にとって住みやすい環境が整い、実際に若者の人口が増加に転じたことはめざすべき姿にとって好材料である。 また、「一宮市内の企業に既に働いている若者の割合」は、数値的には微増ではあるが、依然として名古屋や有名企業への就職希望が多いため、実際に市内の企業に勤務している転入者や市民で市内の企業に就職する若者はいるものの、指標としては表れにくい面がある。 「一宮市に住み続けたいと思う若者の割合」では、平成26年度数値に次ぐ低い数値となっており、若者の考えや行動が多様化し、住環境において尾張一宮駅前ビルや飲食店の増加など、ハード面は充実してきているため、ソフト面での充実が必要であると考えられる。
------	--	--

評価がB・Cの場合

4. 事務事業群に対する評価(行政活動の評価)

長期成果(事業群①)	長期成果(事業群②)	長期成果(事業群③)
多くの若者が訪れ、一宮市のことを好意的に認知している	一宮市で暮らしている若者が「これからも住み続けたい」と思っている	
おりもの感謝祭一宮七夕まつり事業	産業基盤整備事業	いちのみやリバーサイドフェスティバル補助事業
濃尾大花火事業	いちのみやリバーサイドフェスティバル補助事業	138タワーパークイベント事業
宣伝用パンフレット作成事業	138タワーパークイベント事業	ツインアーチ138維持管理事業
一宮市観光協会事業	ツインアーチ138維持管理事業	商工団体等事業費補助事業
若者就労支援事業	商工団体等事業費補助事業	商業団体駐車場設置事業費補助事業
中小企業相談所補助事業		中心市街地活性化基本計画策定事業
企業立地促進事業		尾張一宮駅前ビル活用事業
評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の一手手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。	
評価	長期成果は、若者の「意識」と「生活」に分けており、モレもダブリもなく設定されている。各事務事業も、長期成果を達成するために必要な事業が行われている。 この施策でいう若者は、年齢が18歳から34歳までと年齢層が幅広く、また家庭・生活環境も異なるため、その行動や考え方が多種多様であり、個人の価値観に因る部分が多い。そのため、めざすべき姿を行政の事業活動だけで実現することは難しい。今後も継続して事業を進めていく必要がある。	
次年度の改善計画	まちづくり指標の内、「一宮市に住み続けたいと思う若者の割合」の実績値が前年と比べ減少したため注視しつつ、めざすべき姿に向けて今後も継続的に事業を行う。	

市民からみた計画の進捗状況 □A ■B ▣C

- ・A判定(改善傾向) 9%
- ・B判定(停滞) 63%
- ・C判定(悪化傾向) 28%

